

1 課題設定の理由

現行の学習指導要領にある「リーディング」という科目は、新学習指導要領ではなくなる。文部科学省が示した科目変更のイメージ図によると、リーディングで扱っている内容は、「コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の中に含まれることになる。科目名にコミュニケーションという言葉が付くということは、今後「コミュニケーション能力の育成」がますます重要課題となってくるということであると考えられる。新学習指導要領ではコミュニケーション能力を育成するために、「生徒が英語に触れる機会を充実するとともに、授業を実際のコミュニケーションの場面とするため、授業を英語で行うことを基本とする」と明記された。現在の授業では、教科書本文の内容理解が授業の主な目的になっており、そのために使用する言語はほとんどが日本語である。学習指導要領改訂の趣旨を踏まえ、生徒のコミュニケーション能力を育成するための一つの手段として、英語で内容理解をするためにはどのような活動があるかをテーマとし、リーディングの授業において本研究を行うことにした。

2 生徒の実態及び仮説の設定

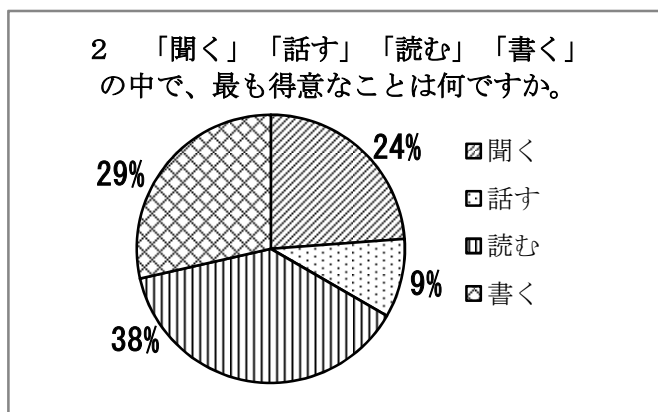
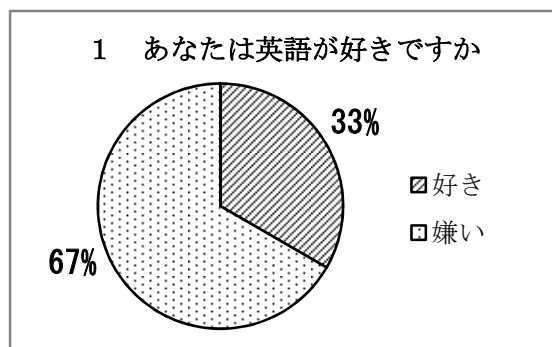
(1) 事前アンケート

生徒の英語学習に対する意識を調査するため、5月下旬にアンケートを実施した。調査対象は3年生 42名で、主に文系の四年制大学への進学を希望する生徒が在籍するクラスである。カリキュラムとしては、「リーディング」4単位と「ライティング」2単位を履修している。

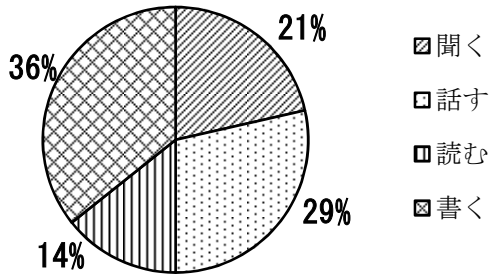
<実施したアンケート>

- 1 あなたは英語が好きですか。
- 2 「聞く」「話す」「読む」「書く」の中で、最も得意なこと何ですか。
- 3 「聞く」「話す」「読む」「書く」の中で、最も苦手なこと何ですか。
- 4 英語を「聞く」ことに関して、どのようなことができるようになりたいですか。
- 5 英語を「話す」ことに関して、どのようなことができるようになりたいですか。
- 6 英語を「読む」ことに関して、どのようなことができるようになりたいですか。
- 7 英語を「書く」ことに関して、どのようなことができるようになりたいですか。

<アンケート結果>



3 「聞く」「話す」「読む」「書く」
の中で、最も苦手なことは何ですか。



※以下の回答については主なものを抜粋

- 4 英語を「聞く」ことに関して、どのようなことができるようになりたいですか。
- ・会話の内容を理解できるようになりたい。
 - ・テストや模試のリスニング問題ができるようになりたい。
 - ・単語を正確に聞き取れるようになりたい。
- 5 英語を「話す」ことに関して、どのようなことができるようになりたいですか。
- ・外国人の方と会話ができるようになりたい。
 - ・簡単な英会話ができるようになりたい。
 - ・頭で考えたことを言葉で表現したい。
- 6 英語を「読む」ことに関して、どのようなことができるようになりたいですか。
- ・読んでいる内容を理解できるようになりたい。
 - ・英語の本や英字新聞を読めるようになりたい。
 - ・速読ができるようになりたい。
- 7 英語を「書く」ことに関して、どのようなことができるようになりたいですか。
- ・英作文ができるようになりたい。
 - ・すらすら書けるようになりたい。
 - ・多くの単語を使って書けるようになりたい。

日ごろ、授業で行っていることのほとんどが本文の和訳を中心とした内容の読み取りであるせいか、「読むこと」を得意としている生徒が多いことが分かった。2年次後半から、長文読解の教材を週末課題等で学習してきたことも要因であると推測される。4技能のうち「書くこと」を苦手とする生徒が最も多く、次いで「話すこと」に苦手意識をもつ生徒が多いことが分かった。対象の生徒は1年生の時から担当しているが、現在の「リーディング」の授業はもちろん、今までの授業においても「話す」活動や意見を「書く」活動が少なかったことがその一因と考える。さらに、67%の生徒が英語が嫌いだと回答していることも踏まえ、授業改善の必要性を感じた。

今回の調査は四年制大学進学希望者を対象としていることから、「聞く」「読む」「書く」といった技能に関しては、「模擬試験等で点数がとれるようになりたい」という思いがうかがえる回答が多かった。「話す」ことに関しては、「英語で会話ができるようになりたい」と回答する生徒が多かった。

(2) 事前アンケートに基づく仮説

アンケートの結果から、以下の仮説を立てた。

仮説 1

教師が授業中にできるだけ多くの英語を発話し、英語でのインタラクションを増やしていけば、生徒が英語に触れる機会が増え、英語によるコミュニケーションへの興味・関心が高まる。

仮説 2

生徒が得意と感じている「読むこと」を中心とした活動と、苦手意識の強い「書く」活動を統合的に指導することで、自分の意見を伝える能力が伸長する。

(3) 到達目標

現行の学習指導要領の「リーディング」の目標は、「英語を読んで、情報や書き手の意向などを理解する能力をさらに伸ばすとともに、この能力を活用して積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる」ことである。「リーディング」におけるコミュニケーション活動とは、「書かれた情報や書き手の意向などを、場面や目的に応じて読み取り適切に対応することを意味する。」と現行の学習指導要領解説に書かれている。コミュニケーション活動の例として、「まとまりのある文を読んで、書き手の意向などを理解し、それについて自分の考えをまとめたり、伝えたりする。」となっている。

新学習指導要領の趣旨を踏まえ、このようなコミュニケーション活動を英語で実施し、生徒のコミュニケーション能力を伸長したいと考えた。まずは、上記の「まとまりのある文を読んで、書き手の意向などを理解し」が指す内容理解を英語で行い、さらに、「それについて自分の考えをまとめたり、伝えたりする」と書かれているように、学んだことについて自分の意見を伝える能力を身に付けさせることを到達目標とする。

3 本研究の流れ

本研究では、ABCの三種類の活動を、3段階に分けて実施した。

活動A	リーディングの授業における導入に関する活動
活動B	リーディングの授業における内容の確認に関する活動
活動C	リーディングの授業における内容の定着に関する活動

<具体的な実施内容>

活動 段階	活動A	活動B	活動C
I	視覚教材を用いた oral introduction 事例①	T/F Question やQ & A で内容を理解する活動 事例①	topic sentence を抜き出す活動 (skimming) 事例①
II	word matching および	T/F Question やQ & A を作成する活動 事例②	topic sentence を用いて summary を書く活動 事例②
III	scanning 事例②	作成した質問を用いたコミュニケーション活動 事例③	意見文を書く活動 事例③

4 実践内容

(1) 段階 I (6、7月)

これまで、和訳を中心とした授業を実施してきた。本研究では、最終的には英語でのアウトプットを目指しているが、そのためにはまず英語のインプットを増やす必要がある。まずは教師の英語の発話を増やすことにした。指示はもちろんであるが、本文を読み取る際もなるべく英語を用い、インタラクションを図りながら内容を理解させる活動を効果的に取り入れた授業

を実施することにした。

段階 I の到達目標

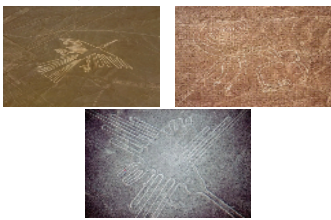

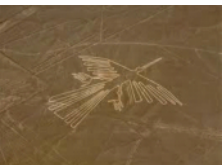


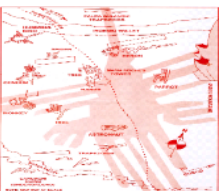
- 活動Aに関して ・教師の **oral introduction** を聞いて、本文の内容を理解することができる。
活動Bに関して ・本文に関する口頭での T/F Question を通して、内容を理解できる。
活動Cに関して ・skimming で、各段落の topic sentence を抜き出すことができる。

使用教科書 Vivid Reading Lesson 2 *A World Mystery – The Nazca Lines* (第一学習社)

(ア)活動Aに関する事例① 視覚教材を用いた英語での oral introduction

教師の英語の発話量を増やすといっても、一方的な情報伝達にならないようにしなければならない。また、英語を聞きとることに生徒を慣れさせる必要もある。これらのことに留意しないと、生徒の授業へ取り組む意欲が低下してしまうこともある。そこで、生徒の興味・関心を高めるために、視覚教材を用いながら oral introduction を行うことにした。プロジェクトを用い、写真を提示しながら本文に関する英問英答を行った。スライドに本文に関する質問を提示しながら、英問英答を行うことで、活動の難易度を下げ、教師と生徒の両方の英語の発話量を増やせるようにした。ペア活動を基本とし、教師の質問後、ペアで考える時間を与えてから答えさせるようにした。また、最後に「どのように描かれたかを想像してみよう」という質問をし、これから学習する内容に興味・関心をもたせるようにした。(資料 1)

<資料 1 >

<p>Lesson 2</p> <p>A World Mystery ? The Nazca Lines</p>	<p>Q. 1 What are these?</p> 	<p>Q. 2 Where is Peru?</p> 
<p>Q. 3 What is this?</p> 	<p>Q. 4 What is this?</p> 	<p>Q. 5 What is this?</p> 
<p>The Nazca Lines</p> 	<p>質問例</p> <ul style="list-style-type: none">・ Have you ever heard of the Nazca Lines or 'nasuka no chijoue'?・ Where are the Nazca Lines?・ Do you know where Peru is?・ What are the Nazca Lines?	

・ Try to guess how the Nazca Lines were drawn in pairs. I want you to think about it in English, but you can use Japanese if necessary.

(イ)活動Bに関する事例① T/F Question による内容理解

これまでも生徒に本文の内容を理解させるために、日本語での Q & A は実施してきた。しかし、英文を読みながら質問に答えるのではなく、日本語訳を読みながら答えている生徒が

多く、英文読解というよりは、日本語訳の確認のような作業になっていた。「生徒が英語に触れる機会を増やす」ため、英文を読みながら英語で質問に答え、内容を理解していく活動を実施した。生徒が少しずつ英語を聞くことにも発話することにも慣れていくように、段階的な指導を心がけ、まずは、T/F Question を実施した。これまでのように、日本語で内容を確認した後に行うのではなく、最初にT/F Question を実施し、その後今までのように日本語で内容を確認し、再度同じT/F Question を行った。生徒が内容を把握していく際に誤解しやすい箇所や意味がとりにくい箇所について質問するようにした。また、視覚教材が有効的であることが分かったため、難しい箇所は絵（資料2）を提示しながらT/F Question を行った。基本的な授業の流れは以下の通りである。

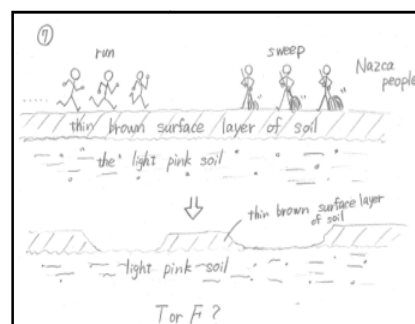
—基本的な指導手順—

- ア) 本文を目で追いながらCDによるリスニングをさせる。
- イ) 教師が英語でT/F Question をする。
- ウ) ペアで答えを確認させる。
- エ) 日本語で本文の内容を理解させる。
- オ) 教科書を閉じさせ、もう一度同じT/F Question をする。
- カ) 自分で考えた最初の答えが合っていたかどうか、もし違っていたらどこを読み違えたのかを確認させ、本文にアンダーラインを引かせる。
- キ) 音読をする。

<資料2>

Lesson 2 (Part 1)のT/F Question の例

1. If you fly over the Nazca plain, you see a few drawings on the ground.
2. We can understand what all of the drawing mean.
3. All the lines are as narrow as six inches.
4. Some lines run for many miles.
5. Some lines may be as wide as 100m.
6. The Nazca people removed dark surface stones and placed them in patterns.
7. To reveal the light pink soil, the Nazca people ran and swept the desert's thin brown surface layer of soil.
8. These light-colored Nazca Lines have not changed for many centuries, because the area is wet and climate is not likely to change.



(ウ) 活動Bに関する事例② Q & Aによる内容理解

生徒はT/F Question に積極的に取り組んでいた。そこで、T/F Question を実施しながらも、T/F Question の後に英語によるQ & Aを取り入れた。T/F Question では教師の英語の発話量は増えるが、生徒の発話量が増えないためである。留意した点は、生徒が答えやすい質問を作成することと、答えとなる英文の難易度を上げすぎないことである。指名された生徒だけが答えるのでは、生徒の発話量を増加させることができないため、答え合わせの際には、教師が質問し、まずはペアで答え合わせをし、その後教師がもう一度質問し、クラス全体で口頭で答えるという形にした。

Lesson 2 (Part 3)のQ & A例

1. Could the Nazca people see the figures from the air?
— Why?
2. How old are the drawings?
3. There are many explanations. There are two examples that the figures were made.
 - ① For what could land safely on the ground?
 - ② Why did the Nazca people build balloons?
 Which explanations do you believe? Ask each other in pairs.
4. Who is one of the first modern researchers to become interested in the Nazca figures?
5. Did he think that the lines were “the largest astronomy book in the world”?
6. What did he believe?
— Please explain “astronomical alignments” in Japanese.
7. Could he show his theory completely?
8. Who took up the work after his death?
— What is her job?
9. What did she work out?
— Were they accepted by other scientist?
10. Other scientists didn't accept her calculations, because there is a problem. Can you guess what it is?

<資料 3 >

(エ) 活動Cに関する事例① 各パートの topic sentence を利用した summary 作成 (skimming)

事前アンケートでは、「書くこと」が苦手と答える生徒が一番多かった。しかし前述の通り、学習指導要領のリーディングの言語活動である「まとまりのある文を読んで、書き手の意向などを理解し、それについて自分の考えをまとめたり、伝えたりする。」ためには、英文を書く必要がある。そこで、ワークシート(資料3)を用いて、topic sentence を抜き出させ、それを利用して summary を書かせることで「書く」活動へとつなげるようにした。ただし、段階的指導が必要であると考えたため、初回は穴埋め形式の summary にした。生徒の様子を見ながら、徐々に英文を skimming できるように指導した。

Lesson 2 A World Mystery — The Nazca Lines WORKSHEET ①

No. _____ Name _____

Q1. Pull out the topic sentences from each part of the text.

Part 1 Who made the drawings and why?
→ Because of the area's dry, stable climate, these light-colored Nazca Lines have remained nearly unchanged for many centuries.

Part 2
→ One person ~ third one.
The symbols ~ a magnifying system to copy it.

Part 3
→ He thought ~ "the largest astronomy book in the world"
He believed ~ certain astronomical alignments.

Part 4
→ They should be preserved forever.

Q2. Fill in the blanks appropriately so that the passage agrees with the content of the text lesson. (p.88)

The Nazca plain is full of mysteries. There are various drawings on the (ground). Who drew such enormous pictures which could only be seen from the air? How were they drawn? What was their purpose?

Straight lines are thought to have been drawn by using (stones) and the enormous pictures by using a (magnifying) system. The Nazca people made the lines by removing dark surface (stones) and placing them in patterns, or by removing the desert's thin brown surface layer of soil.

The purpose of the drawings remains a mystery. There are many possible explanations. One is that the figures were made so that (space) machines could land safely on the ground; a second is that the Nazca people built (balloons) that allowed them to see the figures when they flew over the area. A recent theory says that the drawings may be related to (water). Ancient waterways seem to be connected with some of the lines, but more evidence needs to be collected to support this theory.

(オ) 段階 I の研究内容の考察

教師が意図的に授業中の英語の発話量を増やすことで、生徒の英語の発話量も確実に増えてきた。教師が日本語で話しかければ、生徒は日本語で答える。しかし、教師が英語で問いかければ、生徒は何とかして英語で答えようとする。そのような言葉のやりとりの場面が授業中に多くみられるようになった。細かな英文解釈、文法説明などは日本語で行った。生徒に英語でコミュニケーションを図ることに対して意欲をもたせる必要性を感じ、様子を見ながらであるが、徐々に英語の発話量や、英語でのやりとりの場面を増やした。英語で授業を

行う際に一番問題であると感じたのは、生徒の語彙力の不足である。生徒は、言いたいことがあっても言えない、伝えたいことがあっても伝える語彙がない、という状況であった。また、「書くこと」に対しては、まだまだ意欲的に取り組むことができない場面も多くみられ、指導の改善が必要であった。到達目標ごとの考察は以下の通りである。

・活動Aの到達目標の達成状況

英語だけで本文を導入するのではなく、PCやプロジェクタを使用して英語で授業の導入を行うことは、効果的な方法であった。スクリーン上の画像を指しながら質問したり、そこから考えられる補足的な質問をしたりすると、生徒は顔を上げて聞くことになり、顔を合わせてスムーズな英語によるやりとりができた。生徒の反応もよく、視覚教材の有用性を改めて感じた。視覚教材を補助教材として使用することで、「教師の oral introduction を聞いて、内容を理解することができる」という到達目標は達成された。

・活動Bの到達目標の達成状況

指示も含めて英語での T/F Question による内容理解の活動を実施したところ、生徒は抵抗なく活動していた。今回は、同じ T/F Question を本文理解の前と後の二回行ったが、特に、本文確認後に再度 T/F Question を行うことで、自分が勘違いしていたことに気付く生徒もいた。また、ペアと正解の数を競い合うなど、活動に主体的に取り組む生徒が多かった。「本文に関する口頭での T/F Question を通して、内容を理解できる。」という到達目標は達成された。

生徒は T/F Question に意欲的に取り組んでいたため、英語での Q&A を実施した。しかし、英語で質問されたことについて、英語で情報を整理し、英語でそれを伝えるという作業は、やや難易度が高かったようだ。そこで、易しい表現で言い換えたり、一度英文を書いてから答えさせたりと、段階的な指導を心がけながら、教師が根気強く取り組むことで、生徒も徐々に慣れ、英語で何とか解答することができるようになってきた。

・活動Cの到達目標の達成状況

リーディングという授業の特質を考えて、本文の内容理解を目標とし、そのための一つの手段として summary を書く活動を実施した。各パートの topic sentence をつなげて簡単な summary を作成するという活動内容であったが、topic sentence を抜き出すことに苦労していた生徒がいた。さらに、topic sentence を抜き出すことができても、多くの生徒が、それらをつなぐことができないという問題点が出てきた。そこで、生徒の書く意欲を損ねないように、語と語、文と文をつなげるため接続詞と前置詞を確認するワークシート（資料4）を作成した。ワークシートを活用することで、topic sentence をつなげるための手だてが見つかり、取り組みやすくなったようである。「skimming で、各段落の topic sentence を抜き出すことができる。」という到達目標は、ワークシートを用いたり、穴埋め形式を用いたりすることで、何とか達成できた。

<資料4>

Lesson 2 A World Mystery — The Nazca Lines WORKSHEET ©

No. _____ Name _____

Q1. Write down as many conjunctions as possible.

No.	or	No.	since	No.	
No.	and	No.	while	No.	
No.	but	No.	once	No.	
No.	both	No.	when	No.	
No.	that	No.	where	No.	
No.	whether	No.		No.	
No.	if	No.		No.	
No.	though	No.		No.	
No.	as	No.		No.	
No.	before	No.		No.	
No.	after	No.		No.	
No.	so	No.		No.	

Q2. Write down as many prepositions as possible.

No.	over	No.	along	No.	until
No.	on	No.	toward	No.	till
No.	of	No.	about	No.	above
No.	from	No.	beside	No.	below
No.	to	No.	between	No.	within
No.	as	No.	during	No.	against
No.	without	No.	across	No.	before
No.	far	No.	into	No.	after
No.	by	No.	through	No.	around
No.	in	No.	under	No.	near
No.	at	No.	among	No.	with

(2) 段階Ⅱ・Ⅲ（9、10月）

(ア) 段階Ⅰの考察に基づく改善工夫

段階Ⅰでは、生徒の英語でのアウトプットを目指し、英語のインプット量を増やす工夫をした。授業の雰囲気作りを大切にし、英語でのやりとりがしやすくなるよう留意した。生徒も、英文を読み、英語で考えるという作業には慣れてきた。しかし、自分の意見をまとめる、考えたことを英語で相手に伝え理解してもらおうという段階までは到達できなかった。英語で授業を行ったり、英語で様々な活動を行ったりする際に一番課題であると感じたのは、生徒の語彙力が不足していることである。また、T/F Question やQ&Aでは、教師からの英語でのインプット量が増えることと、英語で考える作業が入ることは利点であるが、生徒の英語でのアウトプットが少ないことが課題であった。段階Ⅰでは、教師によるT/F Question やQ&Aに生徒は解答するだけだったため、教師1対生徒40のやりとりが多くなってしまい、十分なインタラクションが図れていなかった。生徒自身にT/F Question やQ&Aの問題を作らせ、それを生徒同士で質問し合うという活動を取り入れるなどの改善が必要であると感じた。さらに、段階Ⅰではワークシートを用いて topic sentence を抜き出し、穴埋め形式での summary を書かせてみたが、徐々に穴埋めではなく生徒自身に書かせるような段階的な指導をしていくことにした。また、生徒の中には英語に自信がない者がいるので、ペアワークやグループワークなども取り入れる工夫をしていく必要がある。

段階Ⅱ・Ⅲの到達目標

活動Aに関して

- ・導入（新出単語、本文の内容）において、英語での word matching をすることで語彙力をつける。
- ・与えられた英語での問いに対して scanning をすることで、内容を理解することができる。

活動Bに関して

- ・本文に関する T/F Question やQ&Aを作成し、それを基にコミュニケーション活動することができる。

活動Cに関して

- ・ topic sentence を抜き出して summary を書くことができる。
- ・本文の中で最も印象に残った文を抜き出し、その理由を書いて相手に伝えることができる。

使用教科書 Vivid Reading Lesson 3 *She Helped Abolished slavery*（第一学習社）

(イ) 活動Aに関する事例② word matching による新出単語の導入

生徒の語彙力不足を補うための活動として、ワークシート（資料5）を用いて、新出単語の導入において英語で word matching させた。これまでは日本語で意味を確認していたが、新出単語と簡単な英語で言い換えた文章をマッチングさせることで、新出単語の意味を英文の説明から推測させた。答え合わせをする際は、まずはペアで確認させ、教師が英語の説明文を読み、“What does this sentence mean?” と問いかけ、生徒が英語で答えるという流れにした。最後に、自分ができなかったところや、意味が不確かだった単語を、辞書を使って確認させた。定着につなげるために、次の授業では復習としてワークシートなしで同じ活動を行った。また、教師が問いかけ生徒が答えるだけでなく、ペアワークでも実施した。困っている相手に一生懸命に英語でヒントを出す姿が見られた。

(ウ) 活動Aに関する事例③ scanning による本文の導入

必要な情報を探しながら本文を読むという scanning の手法を用いて、本文の導入を行った。各パートごとの質問をあらかじめワークシート（資料5）に与えておき、その質問の答えを探しながら本文を読んでいく活動を行った。質問は、生徒が誤解しそうな箇所や、ポイントとなる箇所から出題した。生徒はまず質問を正確に理解する必要があるため、質問事項はペアワークで確認させた。英語で要点をつかむ作業であるため、topic sentence を探す際の手がかりになったようである。また、ある程度の量を時間内で読まなければならないので、速読の練習にもなったようだ。生徒は意欲的に取り組み、その後の内容理解のための T/F Question や Q & A にスムーズに移行できた。

<資料5>

Lesson 3 *She Helped Abolish Slavery* WORKSHEET ①

No. _____ Name _____

Q1. Match the following words with English sentences.

woodshed	→ extremely and shockingly or distressingly bad or serious
composition	→ someone who is owned by another person and works for them for no money
preacher	→ illegal activities in general
slavery	→ a work of music, literature, or art (an essay, especially one written by a school or college student)
terrible	→ to get money for work that you do
earn	→ someone who talks about a religious subject in a public place, especially at a church
slave	→ the state of being a slave
crime	→ any of several parts of something that are published, broadcast, or made public in sequence at intervals
installment	→ a shed where wood for fuel is stored
cabin	→ a small shelter or house, made of wood and situated in a wild or remote area
	→ an angry argument or disagreement, typically between people who are usually on good terms

Q2. Based on the content of the text lesson, answer the following questions.

Part 1: What did Harriet's father wish?
→ He wished she was a boy so that she could grow up to be a preacher, like he was.

Part 2: What did she begin to do because her husband earned very little?
→ But Calvin Stowe earned very little, so Harriet began to write stories for women's magazines.

Part 3: What did she write about in her story in a religious magazine?
→ She wrote about a slave.

Part 4: What did her story do to people?
→ Of course, she alone had not started it, but her book had done a great deal to make people realize what they felt.

(エ) 活動Bに関する事例② 英語で T/F Question や Q & A を作成する活動

段階 I では、教師による T/F Question や Q & A を実施したが、課題として生徒の発話量が少ないことが挙げられた。そこで、本文の内容理解の前の T/F Question や Q & A は教師が行ったが、内容理解後はワークシート（資料6）を用いて、生徒に T/F Question や Q & A を作成させた。本文のポイントだった箇所や、理解するのが難しかった箇所を質問するように指導した。また、本文と全く同じ表現ではなく、少し表現を変えるように指示した。最初は戸惑っている生徒もいたが、教師の T/F Question や Q & A がヒントになることを伝え、それらをより注意して聞いたり、メモをとったりしていた。慣れてくると、わざとひっかける質問を作成したりして、生徒なりに工夫して楽しく活動していた。基本的にはペアワークとした。

<資料6>

Lesson 3 *She Helped Abolish Slavery* WORKSHEET ②

No. _____ Name _____

Q1. Based on the content of the lesson, make True or False questions. Then ask the other group the questions.

Part 1
→ She knew her father loved her and was not proud of her.
The answer is (true / false).

Part 2
→ She didn't marry a professor named Calvin Stowe.
The answer is (true / false).

Part 3
→ Calvin got an offer to teach in the West.
The answer is (true / false).

Part 4
→ "Wish she were a boy," her father had said.
The answer is (true / false).

Q2. Based on the content of the lesson, make questions and answers. Then ask the other person the questions.

Part 1
Q: Who had started such a school in Hartford, Connecticut?
A: It was Harriet's older sister, Catherine.

Part 2
Q: Why was Harriet busy?
A: Because she did keeping house and tending the children.

Part 3
Q: What was seen it published?
A: It was as a book.

Part 4
Q: Who had said to her, "Wish she were a boy."
A: Her father had.

(オ) 活動Bに関する事例③ 作成した T/F Question や Q & A 用いたコミュニケーション活動

活動Bに関する事例②で、生徒に T/F Question や Q & A を作成させた。それを生徒同士で出題したり答えたりすることで、生徒同士が英語でインタラクションを図る活動をした。英語に苦手意識をもっていたり、思うように質問が作れなかったりする生徒がいるので、最初はペアワークとした。ただ質問を読みそれに答えるのではなく、ヒントを出すなどして、

相手が答えやすいように出題するよう工夫させた。また、活動中は日本語の使用を禁止にしたため、何とか英語で相手に伝えたり、相手の言いたいことを理解しようとしたりして、協力しながら活動している生徒が多かった。慣れてからは、四人のグループでの活動にし、一人が出題し、三人が速さと正確さを競いながら解答するという活動にした。他の生徒の質問を聞き、「そういう質問があったかあ」「その質問上手い！」などと、学び合う姿もみられ、生徒たちは積極的に取り組んでいた。

(カ)活動Cに関する事例② 各パートにおける topic sentence を用いた summary 作成の活動

活動Cに関する事例①の発展形である。生徒は topic sentence を抜き出せるようになってきたのでそれを自分の力でつなげて summary を作らせた。英語を書くことに苦手意識が強い生徒たちであるので抜き出した文をつなげていくことで、ある程度の長さの英文を書けるようにし、自信をもたせるようにした。ワークシート(資料7)を用い、まずは topic sentence を抜き出させ、それを基に summary を作成させた。基本的にはペアワークとし、相談しながら活動させた。作成した summary は別のペアと交換させ、生徒同士で添削をさせた後、提出させた。添削する際には、よい箇所には赤のアンダーラインを、間違っている箇所や気になる箇所には青のアンダーラインを引かせた。青のアンダーラインの部分は、提出前に、再度自分で書き直しをさせた。

<資料7>

Lesson 3 She Helped Abolish Slavery WORKSHEET ⑦

No. _____ Name _____

Q1. Pull out the topic sentences from each part of the text.

Part 1
→ "Wish Hattie had been a boy."

Part 2
→ The Beechers had always been against slavery, but... what a terrible thing slavery was

Part 3
→ She began to write and the story kept growing and growing in her mind. She wrote about a slave named Tom.

Part 4
→ But his middle daughter, so bright and quick, a woman, a wife and mother, had finally had more power and influence than any of his sons.

Q2. Write down the summary of the lesson.
"Wish Hattie had been a boy," her father said, Lyman Beecher was sure that preachers were the only people with real power and influence. And the Beechers had always been against slavery, but now Harriet saw for herself what a terrible thing slavery was. Because she began to write and the story kept growing and growing in her mind. She wrote about a slave named Tom, who was sold away from his family and about a beautiful slave named Eliza, who ran away with her young son when he was to be sold to a new master. But his middle daughter, so bright and quick, a woman, a wife and mother, had finally had more power and influence than any of his sons.

(キ)活動Cに関する事例③ 最も印象に残った文を選び自分の意見を書く活動

topic sentence をつなげて summary を書く活動を何回か実施することで、英文を書くことに対する抵抗感が減り、書く量も増え、書くスピードも速くなった。topic sentence を正確に抜き出す作業をすることで、内容理解が深まり、Q&Aのような他の活動においても日本語訳に頼らずに英文を見て考えるようになってきた。そこで、ワークシート(資料8)を用いて、各パートの中から生徒自身が最も印象に残った文を抜き出させ、その理由やそこから考えたことなどを書かせる活動を行った。文を抜き出すことはできても、その理由や意見を英語で書くことは、生徒にとっては難易度の高い活動であり、自分が思うことを英語で表現できずにいる生徒が多かった。そこで、どう表現してよいか分からないときは日本語で書いてもよいということにした。日本語で書かれている部分は、教師が添削する際に英語で表現するようにした。

<資料8>

Lesson 3 She Helped Abolish Slavery WORKSHEET ⑧

No. _____ Name _____

Q. Pull out the most impressive sentence from each part of the text lesson, and write down the reason why you chose it.

Part 1
→ She knew her father loved her and was proud of her.
The reason: They are good relationship. It is important to think about the feeling and warm heart of people around me.

Part 2
→ But what could she do? Nothing.
The reason: She wanted to do something like her father and brother. I could understand her feeling.

Part 3
→ There was still nothing she could do - except, perhaps, she could write a story that might make people see that of course
The reason: anyone who was held as a slave would try to escape. I think she is strong, because she can find what she can do. She has courage to write such story

Part 4
→ "So this is the little woman who started this big war," he said.
The reason: President Lincoln admitted her. She didn't give up her feeling. She is strong.

(ク)段階Ⅱ・Ⅲの研究内容の考察

段階Ⅰで課題と感じたのは、「読む」ためにも「書く」ためにも生徒の語彙力が不足し

ていること、教師からのインプットは増えても、生徒のアウトプットが不足していること、まとまりのある英文を書くことが難しいこと、の三点である。この課題を解決するために、段階Ⅱ・Ⅲでは、様々な指導を行った。英語で質問をする際も必ず補足質問を加えたり、“What do you think?”という質問を頻繁に投げかけたりした。ペアワークやグループワークも多く取り入れ、生徒同士のやりとりを増やしたり、分からないところは教え合ったりできる雰囲気を作った。また、「書く」ことに関する活動も多く取り入れた。リーディングの授業であるので、読んだ内容に関して何かを書くという活動が多かったが、「書くこと」自体に関する抵抗感は少し払拭でき、書こうという姿勢が見られるようになった。しかし、書いた英文の正確さという観点で考えると、まだまだ指導が必要であると感じた。到達目標ごとの考察は以下の通りである。

・活動Aの到達目標の達成状況

生徒の語彙力不足の問題について改善を図るため、授業の導入で word matching の活動を取り入れた。単語の意味を日本語ではなく英文で理解させる形式にしたが、生徒は英文中の語句についても推測しながら、意欲的に取り組んでいた。また、これまでは topic sentence を探すことで本文の大意把握を行っていたが、今回は英語で先に問いを与え、その答えを探すという方法にした。生徒は、scanning しながら、必要な情報を探しながら英文を読んでいた。到達目標は概ね達成できた。

・活動Bの到達目標の達成状況

生徒のアウトプットを増やすことを目標に、本文の内容理解を深めるための T/F Question や Q & A を生徒自身に作成させた。教師からの T/F Question や Q & A を継続して実施してきたため、生徒にとっては取り組みやすい活動であった。最初はパターン化された質問であったが、徐々にいろいろと工夫を凝らした質問を作成できるようになった。作成した質問は、最初はペアで、次はグループで質問し合ったが、楽しそうに活動しており、目標であった生徒同士の英語でのインタラクションを増やすことができた。

・活動Cの到達目標の達成状況

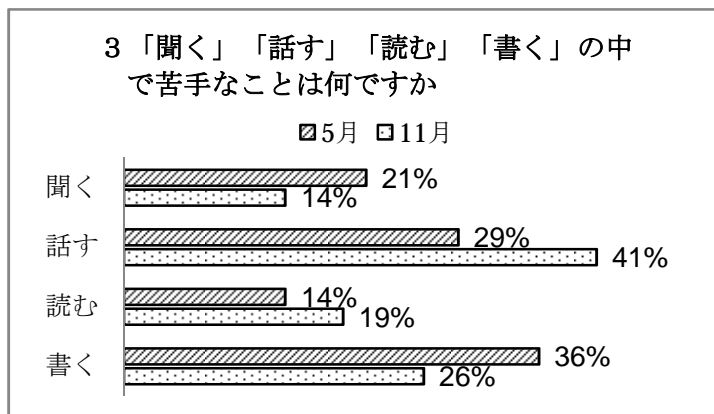
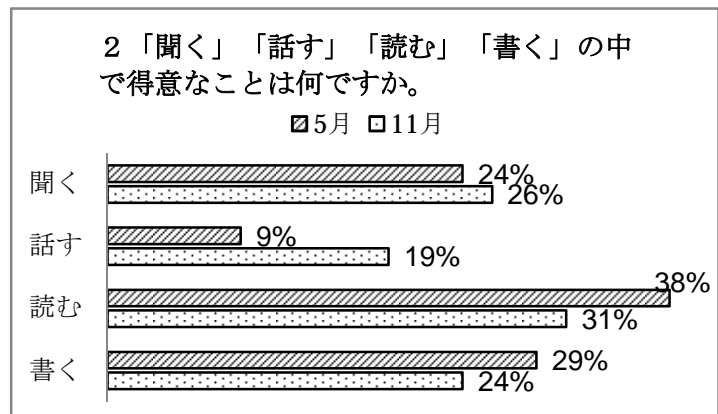
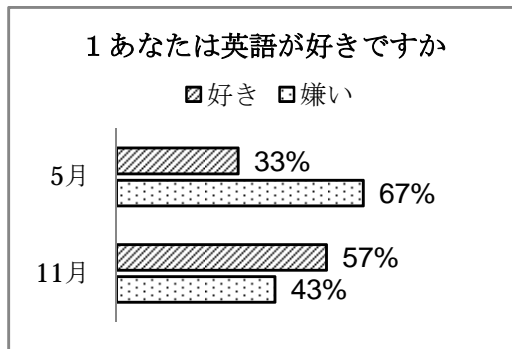
summary を書くという目標に対して様々な活動を行ってきたが、英文を書くこと自体に苦手意識をもつ生徒が多く見られた。しかし、ペアワークやグループワークで実施することで他の生徒と相談したり、話し合ったりして、前向きに取り組んでいた。生徒の「書く」意欲を喚起できたという点においては有意義な活動であるが、生徒のやる気を持続させる工夫が必要である。

印象に残った文を探す活動では、本文を各自でじっくり読んでいる様子が見られた。自分で文を選ぶことができて、理由や意見を書くということになると、モデルになる文章がないため戸惑っている生徒も多かった。書きたいことはあっても英語で書くだけの語彙力や文法力が不足し、「〇〇は何というのですか」という質問が多く出た。今回は生徒自身の感想を文章化することに重点を置き、文法的なことは気にしなくともよい、どうしても英語で表現できないところは日本語を使用してもよい、という指示を与えたことで、少し気を楽にして活動に取り組めるようになった。理由を書かせる活動においてはさらに指導の改善が必要であり、今後の課題である。

5 検証とまとめ

(1) 事後アンケートによる検証

これまでの活動を振り返るために、11月に事後アンケートを前回と同じ内容で、同一の集団を対象に行った。結果は以下の通りである。



*以下は主なものを抜粋

- 4 英語を「聞く」ことに関して、どのようなことができるようになりたいですか。
 - ・会話の内容を理解できるようになりたい。
 - ・相手が言ったことを理解してあげたい。
 - ・リスニングテストで満点が取れるようになりたい。
- 5 英語を「話す」ことに関して、どのようなことができるようになりたいですか。
 - ・片言でも相手に伝わる程度に話せるようになりたい。
 - ・会話ができるくらいになりたい。
 - ・自分の言いたいことを言えるようになりたい。
- 6 英語を「読む」ことに関して、どのようなことができるようになりたいですか。
 - ・入試の長文問題に対応できるようになりたい。
 - ・辞書がなくてもすらすらと読めるようになりたい。
- 7 英語を「書く」ことに関して、どのようなことができるようになりたいですか。
 - ・入試に対応できるくらいになりたい。
 - ・長い文が書けるようになりたい。
 - ・理由や意見を書けるようになりたい。

6月のアンケートでは67%の生徒が英語は嫌いと回答していたが、今回のアンケートでは結果が逆転し、57%の生徒が英語が好きと回答した。理由は二つ考えられる。一つ目は、様々な活動を通して教師が授業中にできるだけ英語を発話し、英語でのインタラクションを意図的に増やしたことで、英語を話す雰囲気ができ、英語に対する苦手意識がなくなったからだと推測できる。二つ目は、訳読式の授業では、生徒は受け身であったが、活動を取り入れることによって自発的に授業に取り組むようになったからだと考える。また、英語によるやりとりを取り

入れた活動、コミュニケーション活動を数多く実施したことで、前回と比べて、「話す」ことが得意だと答えた割合が増加した。しかし、それに比例して「話す」ことが苦手だと答える割合も増加したことは、英語を話すことに抵抗がなくなってきた反面、その難しさを実感したからだと考える。また、生徒の意識の変化は、問4から問7の4技能に関してどのようなことができるようになりたいか、という問いに対しても見られる。特徴的なことは、それぞれの技能において、授業中に取り組んだ活動を通して感じたことが多くなり、具体的な目標をもつようになったことだ。思うように活動ができなかった悔しさなどが、もっとできるようになりたいという向上心につながったと考えられる。

(2)まとめ

今回の授業研究にあたって仮説を二つ設定した。

仮説1に関しては、今までの活動の様子やアンケート結果から概ね立証できたと考える。教師が英語で問いかければ生徒は英語で答え、日本語で問いかければ日本語で答える。つまり、授業中に教師ができるだけ英語を発話することで、生徒も英語を話すことへの抵抗が減り、教師対生徒、生徒対生徒のインタラクションは増える。そうすることで、授業は活発になり、生徒は積極的に授業に取り組むようになる。そのような授業を継続して実施することで、生徒の英語に対する苦手意識の減少し、英語でやりとりをしたいという姿勢が見られるようになった。

この研究では、リーディングという教科の目標から、「読むこと」と「書くこと」の統合的な指導をすることで、自分の意見を伝える能力を身に付けさせたいと考えた。これが仮説2から導かれた到達目標であった。読んだことに関して何かを書くという作業を継続して実施してきた。最も留意したことは、生徒に「書きたい」と思わせることであり、「書く」必要性を認識させたことである。なぜ英文を書くのか、それは読んだ英文の内容を明確にし、自分なりの意見を持ち、それを相手に伝えるためであるということ、活動を通して何度も経験させた。英文を書く機会を多く設けることで、生徒の書くことへの抵抗感を減らすことができた。段階的指導を心がけたが、難易度があがると生徒の自主的、自発的な取組が減少してしまう場面もみられ、指導改善の必要性を感じた。

今回の研究を通して得られたことは、教師、生徒双方の意識を少し変えることで、授業がコミュニケーションの場面になるということである。今回は約半年という短い期間での研究であったが、それでも、英語での授業を心がけることで様々な効果が得られた。未解決の課題や反省すべき点も多く残っているが、それらを踏まえた上で、今後の授業を改善をしていきたい。